

令和7年度 学校評価

伊予市立由並小学校 令和8年 2月

- 【評価基準】
- ◎:8割以上が肯定
- :6割以上が肯定
- △:6割未満が肯定
- 【評価基準】
- A :8割以上が肯定
- B :6割以上が肯定
- C :6割未満が肯定
- 【アンケート】
- 4:大変よい
- 3:よい
- 2:あまりよくない
- 1:よくない
- 【目標値】
- 評価A:各アンケートで8割以上が肯定(3・4)

項目	小項目(重点目標)	評価指標	評定	学校による考察・改善方策	評価資料	評価	集 計 結 果 (%)			
							4	3	2	1
教育課程・学習指導	確かな学力の定着と向上	一人一人が「分かる・できる」を実感できる授業づくりを進めている。	A	多様な教材(デジタルコンテンツを含む)を効果的に活用したり、個々の学びが深まるように1人1台端末を用いた調べ学習や課題への取組を充実させたりするなど、ICT機器の活用を工夫している。また、協働的な学びの場を効果的に取り入れ、互いの学びを共有するなど、学び合いの力を育成している。個人差への対応として、児童の学習の定着度を把握しながら、朝の時間や家庭学習を利用して、復習の機会を定期的、継続的に確保し、知識・理解の定着に努めたい。また、少人数という強みを生かしてきめ細かな指導をしていきたい。	児童アンケート	◎	39	54	7	0
					教職員アンケート	◎	36	64	0	0
					保護者アンケート	◎	12	71	17	0
					地域住民アンケート					
		互いの思いを伝え合う機会の確保、対話力を高める活動など、表現力を伸ばす取組を進めている。	A	定期的に全校で、くすのきタイムを実施し、対話力を高める活動をしている。また、各学級において対話力を高める活動(ペアやグループでの意見交流等)を授業の中で積極的に取り入れている。1学期は、児童自身も照れや恥ずかしさを感じていることから同じ児童や仲のよい児童と関わるが多かったが、2学期は少しずつ交流の幅が広がっていった。今後も活動を続けていくことで、自分の考えを適切に表現していけるようにしたい。	児童アンケート	◎	57	34	7	2
					教職員アンケート	◎	50	40	10	0
					保護者アンケート	○	12	61	27	0
					地域住民アンケート					
		読書習慣の確立のため、読書活動を推進している。	B	週に1回以上の学級での図書室利用に加えて、昼休みの図書室利用についても学年に割り振りを行い読書活動と呼び掛けている。毎月テーマに沿った本を「おすすめコーナー」で紹介したり各月ごとに図書室の本を多く借りた児童を紹介したりした。また、愛媛県立図書館や伊予市立図書館の貸し出し図書を活用し、調べ学習や並行読書にも取り組んでいる。しかし、図書室利用者や貸し出し冊数等の変化は見られず、個人差も大きい。地域学校協働活動推進員にご協力いただきながら、引き続き、朝読書等の時間確保を行い、読書活動の啓発に努めたい。	児童アンケート	○	32	46	20	2
					教職員アンケート	◎	44	56	0	0
					保護者アンケート	△	20	17	53	10
					地域住民アンケート					
		保護者と協力し、家庭学習の習慣化に向けた指導を行っている。 《(学年×10+10)分以上》	B	2学期の途中から、生活リズム調べの中で学習時間を確認する項目を設けている。8割以上の児童が目標時間を達成できているようである。毎日目標時間を達成することは難しいが、生活リズム調べを実施する一週間は、特に目標時間を達成できるように、学校でも宿題等の工夫をしたり声掛けをしたりして、学習時間を意識させ、習慣化につなげていきたい。まだまだ日頃家庭学習が習慣化されていない児童もいるため、更に保護者と連携・協力していく必要がある。	児童アンケート	◎	54	34	10	2
					教職員アンケート	◎	33	56	11	0
					保護者アンケート	△	17	32	49	2
					地域住民アンケート					
		ICTを活用して、個に応じた学習や情報活用能力の育成に努めている。	A	1人1台端末が新しくなったこともあり、児童はさらに意欲的にICT活用に取り組んでいる。一方で、情報活用がうまくできなかったり、情報モラルへの認識が甘かったりする児童も見受けられる。正しい情報活用法を指導するとともに、研修等を通して、教員の知識も日々アップデートする必要がある。	児童アンケート	◎	68	20	12	0
					教職員アンケート	◎	50	40	10	0
					保護者アンケート	◎	35	53	12	0
					地域住民アンケート					
評価委員の所見	・1人1台端末を活用し、知識・理解の定着に努めていることは分かったが、本校の課題の一つとされている読解力の向上にも授業や家庭学習で利用しているのか。 ・家庭学習の習慣化に向け、目標を学年ごとに設定しているが、適切な目標となっているか。個人差も大きいと思われるので、この点も考慮して取り組めるとよいと思う。 ・読書活動の保護者の評価が低く、児童や教職員の評価と乖離があるが、ネットやゲームの時間が増えていることが一つの要因と予想される。読書習慣の向上のためには、保護者の協力が必要である。			学校の対応	・読解力の向上のために県作成のEILSの問題に1人1台端末で取り組んでいる。各自の能力に適した問題を授業のちょっとした時間を活用して繰り返し解くようにしている。 ・家庭学習の習慣化はとても大切なことであり、進学や将来の夢の実現に向けての基礎となるものと捉えている。設定時間は宿題を含めての時間であり、適切であると考えている。 ・読書の意義は大きいと考えている。保護者に読書の意義や学校の読書活動の取組、子どもたちの読書の状況を知らせていく必要がある。また、保護者アンケートの内容について、校内で検討を図りたい。					

項目	小項目(重点目標)	評価指標	評定	学校による考察・改善方策	評価資料	評価	集 計 結 果 (%)				
							4	3	2	1	
教育課程・学習指導	豊かな心を育てる教育の推進	自他を大切にし、よりよく生きるための道徳教育、いじめや差別を許さない人権・同和教育を推進している。	A	道徳授業ハンドブックについて共通理解を図り、全教職員で道徳教育に取り組んできた。また、特別活動や道徳科、生活科や総合的な学習の時間を中心に、全教育活動を通して人権教育を推進してきた。中予地区人権・同和教育研究協議会では、多くの参加者から、少人数や複式学級の課題を克服し、温かな人間関係に支えられた学級経営を基盤とした授業に対する称賛の声をいただいた。人権・同和教育参観日には多くの保護者の参加があり、理解ある感想も多く得られた。	児童アンケート	◎	80	20	0	0	
					教職員アンケート	◎	87	13	0	0	
					保護者アンケート	◎	46	54	0	0	
					地域住民アンケート						
		明るいあいさつ、感謝の気持ちを大切にする指導に努めている。	A	教職員や保護者、地域住民の評価と比べ、児童の評価は高い。しかし、明るく響き合う挨拶を目標とすると課題は残る。引き続き、登校指導や下校指導の中で挨拶について指導したり、各学級で根気よく指導することも必要である。ボランティア委員会がJRC週間に挨拶運動を行ったり、高学年児童も率先して挨拶を行ったりしている。さらに、教職員が挨拶や感謝を伝えることの意義を自分なりに捉え直し、子どもに分かりやすく伝えるとともに、教職員自らよい手本となることで、明るい挨拶や感謝の気持ちを伝え合う雰囲気を高めていきたい。	児童アンケート	◎	76	24	0	0	
					教職員アンケート	◎	67	33	0	0	
					保護者アンケート	◎	34	64	2	0	
					地域住民アンケート	◎	40	60	0	0	
		困難なこともあきらめず、挑戦したり継続して取り組んだりする指導を行っている。	A	運動会や縦割りウォークラリー遠足、高学年児童は水泳大会や陸上大会など様々な行事ごとに、本番に向けて、あきらめずに挑戦することに取り組んできた。また、学習においても宿題だけでなく、高学年を中心に自分で課題を決めて計画的に取り組む学習にも挑戦してきた。 自分が苦手なことに対し消極的な児童に対して、様々なことに対して意欲的に取り組むことができるよう学年や個に応じた言葉掛けを心掛けていきたい。	児童アンケート	◎	61	29	10	0	
					教職員アンケート	◎	40	60	0	0	
					保護者アンケート	○	24	52	24	0	
					地域住民アンケート						
	縦割り班活動を生かした、思いやりのある温かな集団づくりに努めている。	A	2学期は、運動会や縦割りウォークラリー遠足などの縦割り活動が多く、活動を通して、上学年が下学年を思いやる姿や下学年が上学年をお手本にして頑張る姿が見られた。縦割りウォークラリー遠足では、高学年が低学年の思いを大切にしながら、リーダーとして頑張る姿が見られた。縦割り班遊びも計画的に行い、自然にいろいろな学年との関わりが深められ、温かい交流が図られている。	児童アンケート	◎	80	20	0	0		
				教職員アンケート	◎	78	22	0	0		
				保護者アンケート	◎	54	44	2	0		
				地域住民アンケート							
	健やかな体の育成と健康教育の推進	保護者と協力し、「早寝・早起き・朝ご飯」などの良い生活習慣の確立に向けた指導を行っている。	A	生活チェック週間中、良い生活習慣を送れている児童は多くいるが、改善が必要な児童が固定化されている。改善が必要な児童に対しての個人面談の他、年間を通して全員と面談の機会が持てるようにする。また、生活習慣の改善には保護者の方の協力が必要不可欠なため、保護者が集まる機会や個人懇談時などを活用し、生活チェック週間の取り組み方を含め声掛けを行ってきたい。	児童アンケート	◎	68	26	2	2	
					教職員アンケート	◎	44	56	0	0	
					保護者アンケート	◎	39	41	20	0	
					地域住民アンケート						
		運動や外遊びの機会を確保し、体力向上に努めている。	A	学校では、外遊びへの関心が高まるように遊具以外にも様々な用具を常設・新設するようにしている。校長室前には大谷選手からいただいたグローブ、玄関前には一輪車や竹馬、運動場にはボール、フライングディスク、鉄棒と縄跳びの補助器具などがある。また、月に一度を目安に異学年との交流遊び「縦割り班遊び」を続けている。これらをきっかけにして友達と進んで体を動かす児童が多い。家庭では、動画視聴やゲーム等の楽しみがあったり遊び場所や時間が限られたりして、学校に比べると体を動かす機会が少ないと思われる。家庭啓発を工夫するとともに、引き続き、体を動かす楽しさや喜びを味わわせたい。	児童アンケート	◎	73	22	5	0	
					教職員アンケート	◎	89	11	0	0	
					保護者アンケート	◎	34	46	20	0	
					地域住民アンケート						
		命の大切さを理解し、安全に気を付けて生活できるよう指導を行っている。	A	道徳教育や安全教育、縦割り班活動等の充実を図り、豊かな関わりの中で、「命はひとつ」の教育の推進に努めた。交通安全について、日々下校時に注意喚起するとともに、今年度は外部講師を活用し、「SOSの出し方」や「共に支え合いながら命を大切に生きる」をテーマにした講演会を行った。「くすのきタイム」では、仲間づくりや自尊感情を育むことを意識して、異年齢集団活動に取り組んできた。相手に褒められる、認められることの心地よさを体感したり、自分の思いを楽しみながら伝えたり、相手の考えをしっかりと受け止めたりする活動を通して、温かなつながりを実感できるようにした。	児童アンケート	◎	95	5	0	0	
					教職員アンケート	◎	78	22	0	0	
					保護者アンケート	◎	41	54	5	0	
					地域住民アンケート						
評価委員の所見		・車を運転中に下校中の子どもたちに会うことがよくある。横断歩道で待ってもらった車に対して、手を挙げて渡り終えた班長が振り返ってきちんとお礼ができてることが素晴らしいと思う。子どもたちにもぜひ伝えてほしい。 ・「くすのきタイム」の取組について説明があったが、どのような活動をしているのか、もう少し詳しく教えてほしい。			学校の対応	・地域の方に子どもたちの行動を褒めていただき、とても有り難い。さらに多くの方にこのように思っただくことは、結果的に子どもたちの安全性の向上にもつながると考える。 ・「くすのきタイム」では、対話のよさを実感し、人との関わりへの抵抗感を減少できるよう様々な工夫をしながら、いろいろな学年の友達と会話を楽しむ活動を行っている。また、活動後には縦割り班で感想交換の時間を確保し、縦割り班の温かな集団づくりや高学年のリーダーシップを発揮する場としている。					

項目	小項目(重点目標)	評価指標	評定	学校による考察・改善方策	評価資料	評価	集 計 結 果 (%)			
							4	3	2	1
生徒指導	生徒指導の充実	全教職員で一人一人の児童理解に努め、情報共有のもと、いじめ・不登校の早期発見・早期対応を行っている。	A	「いきいき由並っ子」「ジブンミカタプログラム」を定期的に実施し、丁寧な実態把握と相談体制の確立に努めた。生活アンケート後には、必要に応じて懇談の機会を設けたり、家庭と連携を図ったりするなど、小さな兆しを見逃さないことを心掛けた。職員会での児童の情報交換や日々の職員室での会話は、全教職員が全校児童を理解するのに効果的であると思う。一方で、普段は教員に言えない悩みを抱えている児童も多いというようである。少しの変化も見逃さず、温かな声掛けを全教職員で行っていきたい。	児童アンケート					
					教職員アンケート	◎	78	22	0	0
					保護者アンケート					
					地域住民アンケート					
		学年の発達段階に応じた規範意識が身に付くよう指導を行っている。	A	規範意識への児童と保護者や教員の認識の差は徐々にではあるが縮まってきた。しかし、気心の知れた関係の中でも、相手を傷付けていたり、小規模校だからこそ許されていることもあったりする。将来を見据えて、「いけないことはいけない」と指導する意識を持ち続けたい。また、運動会ではフェアプレーの大切さや、勝敗の結果に対する態度、集団行動の約束などを意識させたり、遠足では、公共の場で社会生活のルールを守ることを話し合ったりするなど、機会を捉えて規範意識について考えさせることができた。	児童アンケート	◎	80	20	0	0
					教職員アンケート	◎	44	56	0	0
					保護者アンケート	◎	24	66	10	0
					地域住民アンケート	◎	40	60	0	0
特別支援教育	特別支援教育の推進	教職員の共通理解のもと、交流学級や縦割り班において、子どもたちの温かな人間関係の構築に向けた指導を行っている。	A	学校生活の全ての活動の中で、温かい人間関係づくりを意識して取り組んでいる。毎月の職員会で児童の実態について話し合い、全教職員で共通理解を図ってよりよい支援が行えるよう努力している。特別支援学級の児童は、交流学級でも自然に学級の一員として受け入れられており、温かい交流が図られている。これからも、全ての児童が互いに思いやり、認め合って活動していけるよう支援を続けたい。	児童アンケート					
					教職員アンケート	◎	89	11	0	0
					保護者アンケート					
					地域住民アンケート					
		個に応じた適切な指導ができるよう、個々の指導計画の作成、外部専門家や関係機関との連携が行われている。	A	個に応じた適切な支援ができるよう、支援が必要な児童については個別の指導計画を作成し、保護者と共通理解を図りながら支援を続けている。また、毎月の巡回指導員の来校時には、学習や行動で気になる児童について様子を共有したり、支援の仕方を相談したりしている。巡回指導員のアドバイスを受け、学級担任だけでなく、関係する教員がよりよい支援が行えるよう努力している。	児童アンケート					
					教職員アンケート	◎	87	13	0	0
					保護者アンケート					
					地域住民アンケート					
評価委員の所見		・教職員アンケートのみの項目が多いが、理由はあるのか。 ・様々な行事や活動の中で規範意識が身に付くように取り組まれており、児童アンケートの高い評価からもその成果が表れていると感じる。		学校の対応	・生徒指導、特別支援教育については、児童理解や問題行動への対応、温かな信頼関係づくりや個に応じた指導など、教職員の取組に関する評価指標が多かったために、教職員が自分たちの取組について振り返ることを重視した。 ・これまで継続してきた「いきいき由並っ子」に加えて、「ジブンミカタプログラム」などの県の教育支援プログラムも適切に活用して、子どもたちのために安全・安心な環境づくりや問題行動の未然防止に努めていきたい。					

項目	小項目(重点目標)	評価指標	評定	学校による考察・改善方策	評価資料	評価	集 計 結 果 (%)			
							4	3	2	1
安全管理	安全・安心な学校づくりの推進	児童や教師に安全対応能力を身に付けるため、様々な場面を想定した避難訓練などを適切に実施している。	A	これまでに6回の避難訓練(火災/土砂災害/引き渡し/地震・津波/休み時間・通報訓練/シェイクアウトえひめ)を実施し、3学期には不審者対応の避難訓練・研修を行った。「自分の命は自分で守る」ことの意識化を図ることができ、児童の防災意識の向上に結び付いていると考える。不審者対応の避難訓練では、警察署と連携を取りながら、より防犯意識を高め、充実した研修となるよう見直しを図った。日常の防犯意識を高めるために、西門の施錠、保護者や来校者の名札着用、危機管理マニュアルの見直しを図った。保護者の名札着用については、参観日などの機会を捉えて継続的に呼び掛けた。	児童アンケート	◎	78	20	0	2
					教職員アンケート	◎	78	22	0	0
					保護者アンケート	◎	55	42	3	0
					地域住民アンケート					
		環境美化、施設設備の整備などにより、よりよい教育環境作りに努めている。	A	安全点検を毎月実施し、対策が必要な箇所については、早急な対応を心掛けた。これまで玄関扉の修繕、体育館の換気のための網戸、ネットの設置を終えた。除草や裏山の整備など、学校運営協議会の協力を得て、よりよい教育環境づくりにつながっている。遊具の安全点検で、ジャングルジムとブランコの不具合が指摘された。安全性の確保とともに、子どもたちの遊びの機会確保につながるよう伊予市教育委員会と連携を図り対応していきたい。ボランティア委員会による朝の灌水が定着してきた。さらに花柄摘みや枯葉集めなど環境美化への意識を高める言葉掛けを行っていきたい。	児童アンケート	◎	69	29	0	2
					教職員アンケート	◎	67	33	0	0
					保護者アンケート	◎	55	45	0	0
					地域住民アンケート	◎	70	30	0	0
		家庭や地域との連携を密にして、地域ぐるみの見守り活動を行っている。	A	学校運営協議会と連携を図り、これまでまもるくんの家の見直しや引き渡し訓練時に親子でまもるくんの家を確認するなど子どもの防犯意識の向上に努めてきた。道路の横断の仕方や自転車の乗り方などについて、地域の方からいただいた情報を全教職員で共有し、学年に応じた指導を適切に行った。毎月の交通安全の日や交通安全運動期間中などには、交番や地域の方、保護者が定期的に見守り活動を行ってくださっており、児童の安全確保につながっている。また、スクールガードリーダーの方にも児童の様子を見守っていただいている。	児童アンケート					
					教職員アンケート	◎	75	25	0	0
					保護者アンケート	◎	56	44	0	0
					地域住民アンケート	◎	50	50	0	0
保護者、地域住民等との連携	開かれた特色ある学校づくりの推進	地域の自然や文化、人々との関わりを大切にした学習ができている。	A	生活科や総合的な学習、社会科などで、地域の施設に出向き見学したり自然や人々と触れ合ったりしている。これまで「お年寄りと仲よくならう会」、縦割りウォークラリー遠足、中・高学年は本尊山登山などを通して、地域の自然の美しさや山道を整備する方々の思いに触れ、地域のよさを再確認することができた。中学年は総合的な学習の時間に高齢者や障がいのある方々との交流や体験活動を行い、多様な感じ方や考え方、それらを尊重することの大切さなどを学んだ。今後も、地域の自然や文化、人々との関わりを大切にした学習を行っていきたい。	児童アンケート	◎	73	27	0	0
					教職員アンケート	◎	40	60	0	0
					保護者アンケート	◎	58	39	3	0
					地域住民アンケート	◎	40	60	0	0
		学校の教育活動に関する情報提供を積極的に行っている。	A	ホームページの内容の充実に努め、日々の学校での児童の様子を随時発信することができた。また、学校便りを地域に回覧し、学校の様子を知っていただくために情報提供に努めた。学校運営協議会を中心に、「ふるさと由並・応援隊」の周知を図るとともに、家庭や地域の方との情報共有、連携・協働の実現に向けて、さらに保護者や地域の方の理解と協力を得られるように努めたい。より簡単な操作で確実に保護者に学校からの情報が伝わるよう、連絡方法の見直しを図り、定着しつつある。	児童アンケート					
					教職員アンケート	◎	67	33	0	0
					保護者アンケート	◎	53	47	0	0
					地域住民アンケート	◎	60	30	10	0
		公民館や老人会など、地域の関係団体との連携に努めている。	A	双海町こども教室や双海地区校区別研修会などの公民館主催の事業や地域行事への参加を通して、児童と教職員が様々な学びの機会を得ることができた。また、双海史談会や地域在住の講師を学校に招き、地域の教育資源に直接子どもたちが関わるができる機会を設けた。こうした活動は多くの方の協力に支えられて行われていることを子どもたちに伝え、地域への愛情や感謝の思いを深められるような適切な言葉掛けを行いたい。	児童アンケート					
					教職員アンケート	◎	62	38	0	0
					保護者アンケート	◎	63	34	3	0
					地域住民アンケート	◎	50	50	0	0
評価委員の所見		・学校運営協議会との連携をより推進するために、推進員不在の際にも先生方の要望を把握できるような依頼カードの活用を始めた。地域の団体との調整や印刷の手伝い、授業補助、環境整備などを行ってきた。 ・公民館事業にとっても協力してもらい感謝している。公民館まつりのステージ発表や作品展示、土日の様々な行事の日程調整など協力いただいた。公民館として、「地域の子どもは地域で育てる」ことに引き続き取り組んでいきたい。 ・公民館まつりはコロナ禍以前に戻ったように感じる。とても楽しい行事となった。		学校の対応	・安全・安心な学校づくりのために、今年度の取組を継続するとともに、日頃から様々な視点で安全面についての見直しや啓発活動を図っていく必要がある。 ・今年度、地域学校協働活動推進員をはじめ、学校運営協議会委員の方々に様々な面で協力をいただいた。来年度は、推進員の人柄や豊かな人脈を生かして、地域団体や「ふるさと由並・応援隊」との連絡・調整の面で、学校と地域との連携を推進していただきたい。					

項目	小項目(重点目標)	評価指標	評定	学校による考察・改善方策	評価資料	評価	集 計 結 果 (％)			
							4	3	2	1
研 修	教職員の資質・能力の向上	学び続ける姿勢で研修に臨み、授業改善など自己研鑽に努めている。	A	今年度は、対話力の向上に視点を当て、対話力を高めるスキルトレーニングを取り入れた授業改善に取り組んでいる。1日に1回以上授業で取り入れることを指標としている。今年度のまとめとして、各クラスで実践したことについての成果と課題について情報交換を行う予定である。研修においては、それぞれの校務に応じた研修会に参加し、研修を深めることができている。しかし、一人が多くの校務や主任を抱えており、同時に研究の機会を設ける時間の確保は難しい。今後も、個人が受けた研修の資料を共有したり、職朝や職員会などでのミニ研修を設定したりして、研修の在り方を工夫したい。	児童アンケート					
					教職員アンケート	◎	40	50	10	0
					保護者アンケート					
					地域住民アンケート					
		目標チャレンジ制度における目標の達成に向けた取組を行っている。	A	全教職員が、組織目標を理解し、同じ方向を向かって進む中で、各自が自分の立場で、特に力を入れて取り組みたいことを明確にして目標を立て、PDCAサイクルを回している。子どもへの指導においては、子どもに「こうならないため」ではなく「こうなりたいため」、「ここを直すため」ではなく「ここを伸ばすため」という視点に目を向けさせる大切さを全教職員で共通理解して取り組んできた。全校で取り組むこと、全校で目指すことに対し、教職員一人一人がキャリアに応じて必要な力を意識して実践するよう努めた。	児童アンケート					
					教職員アンケート	◎	62	38	0	0
					保護者アンケート					
					地域住民アンケート					
組 織 運 営 ・ 業 務 改 善	校内組織運営の充実	教育目標、教育方針を共通理解し、具現化に向けて互いに助け合い学び合うことができている。	A	教育目標の実現に向けて、教職員一人一人がそれぞれの立場で具体的な目標を設定し、定期的に振り返ったり週案を通して管理職から指導助言を受けたりしている。また、学期ごとに学校評価の結果を共有し、改善策を検討してよりよい実践に努めている。学校行事の立案の際にも目的を明記し、共通理解を図っている。担当校務以外でも協力的に支え合う風土があり、今後も校長のリーダーシップのもと、教職員・家庭・地域が連携や協力をしながら前向きに取り組んでいく。	児童アンケート					
					教職員アンケート	◎	55	45	0	0
					保護者アンケート					
					地域住民アンケート					
		報告・連絡・相談・確認を密にし、コミュニケーションを大切にした風通しの良い職場となっている。	A	1学期と比べて肯定割合がさらに伸びた。学校運営や生徒指導上の問題等に対して、管理職への速やかな報告を第一に行い、その指導に基づいて教職員の共通理解を図った上で早期対応に努めている。定期的な機会としては、職員会での情報共有の時間が機能している。教職員間の日常会話での情報共有も図られており、全教職員で全校児童を見守る体制が浸透している。今後も一層「報告・連絡・相談・確認」の体制の徹底を推進し、組織的な対応を目指していく。	児童アンケート					
					教職員アンケート	◎	82	18	0	0
					保護者アンケート					
					地域住民アンケート					
		業務改善に向けて、意識改革が進められ、具体的な取組がなされている。	A	業務改善を目指して、教育課程や行事の見直し、一人一人の気付きを生かした改善案の募集などを進めてきた。今後、学校運営協議会との連携をさらに深め、持続可能で具体的な実践によって成果を上げていきたい。そして、実践の成果を検討し、不断の業務改善に取り組んでいく。	児童アンケート					
					教職員アンケート	◎	50	37	13	0
					保護者アンケート					
					地域住民アンケート					
評価委員の所見	・研究の機会はどのくらいあるのか。指定された研修に加えて、自主的な研修もあると思うが、どのような研修があるのか。		学校の対応	・研修の種類としては、県や市、教育センター主催の研修や校内研修、主任などの校務に応じて指名された研修、自主的に参加する研修など様々な種類がある。教員は、その職責を遂行するために、絶えず研修に努めなくてはならないとされており、研修の必要性を強く感じている。 ・今後少子化が進む中で、行事の見直しや業務改善の必要性が高まると考えている。今年度、業務改善を目指して、「できそうなことはまず試す」を合言葉に取り組んできた。今後もこの取組を継続するとともに、家庭や地域との連携・協働をさらに深め、恵まれた環境を生かして、特色ある教育活動を推進し、全ての児童と教職員が幸せな学校生活を送ることができるように努めていく。						